

経営比較分析表

北海道 日高町

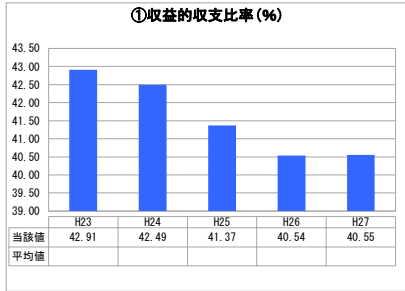
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	66.84	95.62	4,117

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
12,655	992.11	12.76
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
8,354	5.68	1,470.77

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



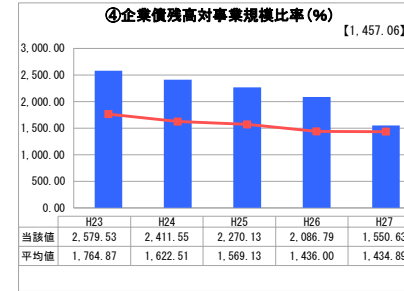
「単年度の収支」



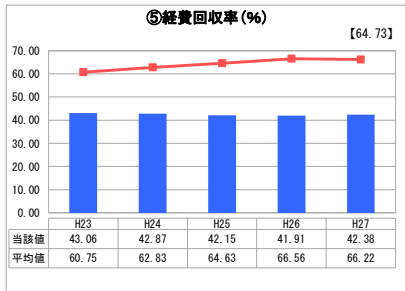
「累積欠損」



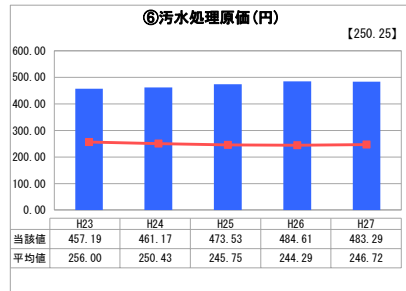
「支払能力」



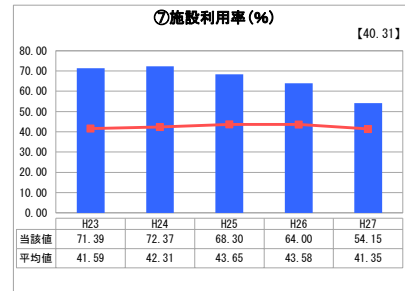
「債務残高」



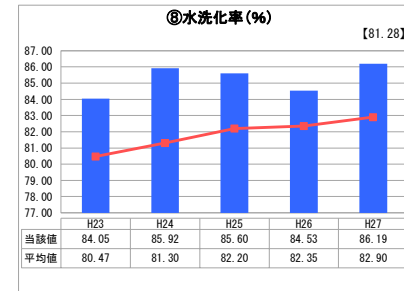
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

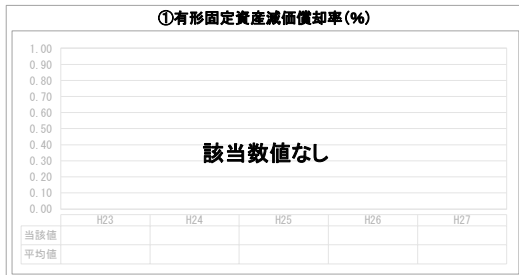


「施設の効率性」

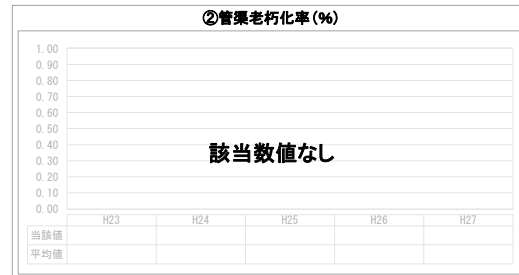


「使用料対象の捕捉」

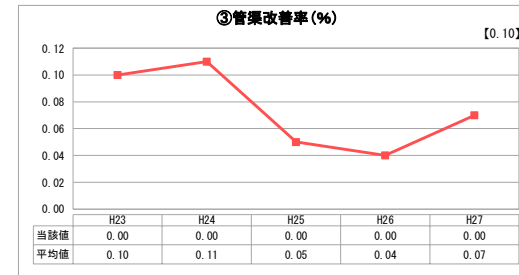
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率については、前年度とほぼ横ばいであるが、100%を大幅に下回っているため、費用削減や改善点の洗い出し等今後も経営改善に向けた取り組みが必要である。

企業債残高対事業規模比率は、今年度は類似団体平均値と比べやや高い水準となり、経年比較では徐々に減少傾向にある。ただし、今後さらに更新が必要な施設があると見込まれるため、投資規模の適切性、改善点の洗い出しに努める必要がある。

経費回収率は類似団体平均値を下回っており、さらに汚水処理原価は平均を上回っている状況である。人口規模から汚水処理原価が高くなる傾向にあるが、効率的な汚水処理の実施、維持管理費の削減に努める。

施設利用率及び水洗化率については、前年度同様平均値以上となっており、良好な水準となっている。

2. 老朽化の状況について

全体総括

昨年度同様に収益的収支比率が低い水準であり、使用料以外の収入に依存している状態である。地域の人口規模から汚水処理原価が高くなる傾向もあるが、今後も維持管理費の削減に努めなければならない。

また、今後施設の老朽化が進み、更新事業が増加してくることが見込まれるため、投資の効率化を図り、経営改善に努めなければならない。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。